

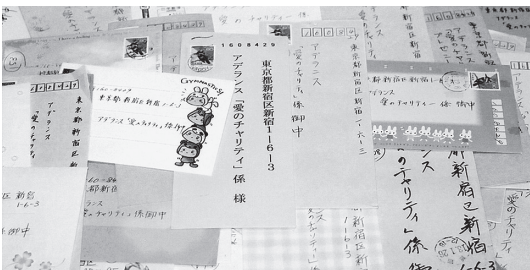
笑顔のために ～アデランスの社会に対する取り組み～

①産学連携

②スタジオAD

③フォンテーヌ緑の森の植林活動

④愛のチャリティ



「愛のチャリティ」宛てに届いた手紙の数々



創業10周年を機に始まった「愛のチャリティ」は、40年継続している



温かく、立ち寄りやすい雰囲気
「美容室こもれび」

患者様の心に寄り添って40年

アデランスでは、病気やけがなどで髪を失った子どもたちにウィッグをプレゼントする「愛のチャリティ」を1978年から継続しています。「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、アデランスが運営する各地の病院内へアサロンや店舗を通じ、この5年間で約1500人にウィッグが贈られました。

静岡県長泉町の県立静岡がんセンターにある「美容室こもれび」。アデランスが国内外で38店舗を運営する病院内へアサロンの第1号店だ。木目調で温かい雰囲気の扉を開けると、店長の三森妙子さんが笑顔で迎えてくれた。

カットやシャンプーはもちろん、抗がん剤の副作用で髪が抜けてしまった患者様からの相談に乗り、医療用ウィッグを取り扱う。「患者さんの気持ちに寄り添った接客を心掛けています。シャンプーする時の姿勢ひとつ取っても、患者さんによって注意点が違うので、看護師さんとの連携も欠かせません」

小児がんの子も来店する。「帽子を深くかぶり、下を向いたままの姿を見ると、心の傷は大人以上だと感じます。『かわいいウィッグを作ろうね』とか、前向きな言葉をかけるようにしています」そうした子を少しでも笑顔にしたいと願って続けているのが「愛のチャリティ」だ。クリスマス期間限定の取り組みだったが、2012年からは通年になった。静岡がんセンター店を通じては、年間10人前後にウィッグが贈られている。オーダーメイドの場合、約1カ月かけて工場で丁寧作られる。「完成したウィッグをつけてあげると、顔を上げて照れ臭そうに笑うんです。それを見た親御さんもうれしそうで、私たちも一気に安心します」と三森さん。子どもたちの笑顔のため、これからも心に寄り添った活動を続けていく。



美容室こもれび
静岡県立静岡がんセンター店店長
三森 妙子 Taeko Mitsumori

1998年入社。沼津店を経て、2003年から「美容室こもれび」の静岡県立静岡がんセンター店勤務。12年から現職。

